

移植に用いる造血幹細胞の 適切な提供の推進に関する 基本方針(案)への意見

日本さい帯血バンクネットワーク
会長 加藤俊一

全体に対する意見

- 「造血幹細胞移植委員会」において精力的かつ充実した検討が行われ、各委員から貴重な意見が出されたことに敬意を表します。
- 基本的な方針として、すでに存在する造血幹細胞供給体制の枠組みを維持しつつ、法律の精神に沿って変更や整備をすることがまとめられたと受けとめています。
- 国際協力の推進についても総論は示されましたが、具体的な提案や方向性についての議論があれば良かったと感じています。
- このような短期的な対応に加えて、今後は将来のあるべき全体像についての議論も必要であると考えます。

臍帯血バンクの課題

＜初期的な課題＞

- 複数の異なる母体による事業体間での連携
→「日本臍帯血バンク連絡協議会(仮)」の検討
臍帯血の品質向上、インシデント・アクシデント情報共有
- 組織、人員、財政の脆弱性を改善
→バンク毎に人員増員と、組織を整備する必要
→国による財政支援の増強を要望
- 技術(方法)、手続きの統一と集約化
→支援機関による支援とポータルサイト構築

＜中期的な課題＞

- Single point of accessの実現
→申込窓口の一本化の検討
→初期コーディネートの一元化の検討

造血幹細胞提供体制

